

植物由来物質の行動薬理学的研究 (22) : 高架式十字迷路試験における植物精油及び含有成分の作用

○梅津 豊司¹, 松浦 真莉子³, 村上 志緒^{2,3}, 林 真一郎², 佐藤 忠章³, 小池 一男³
(¹国環研, ²グリーンフラスコ研, ³東邦大薬)

我々はこれまでの研究で、アロマテラピーで用いられているローズ・オイルやラベンダー・オイルに抗不安様作用のあること、その有効成分はフェネチルアルコール、シトロネロール、リナロールであることをマウスにおけるコンフリクト試験で見いだしている。そこで、上記精油及び成分の抗不安様作用の確認と抗不安様作用を有する植物精油をさらに探索することを目的として、高架式十字迷路法を用いて検討した。実験には ICR 系雄マウスを用いた。陽性対象としてベンゾジアゼピン系抗不安薬であるジアゼパムを用い、適切な観察時間を決定した。同じ条件下で、植物精油としてはローズ、マージョラム、パルマローザ、メリッサ、ローズオットー、サンダルウッド、ベルガモット、レモンバーベナ、ゲットウ、トドマツ、精油成分としてリナロール、フェネチルアルコール、シトロネロールについて検討した。既にコンフリクト試験で抗不安様作用が認められたローズ、リナロール、フェネチルアルコール、シトロネロールについては、高架式十字迷路法でも抗不安様作用が認められた。さらに、抗不安様作用のある精油としてレモンバーベナとメリッサが新たに見いだされた。